

に시다便り



特集 歳をとったら気をつけよう！

老人の『誤嚥性肺炎』

どんな病気？

まず、どのようにおこるかですが、誤嚥性肺炎には、胃内容物を嘔吐に伴い肺に誤って嚥下して生じる「化学的肺炎」と口腔内細菌を不顕性に誤嚥して生じる「細菌性肺炎」とに分けられます。高齢者には、後者のタイプの肺炎が多いとされています。

のどの奥は、肺に行く「気管」と胃につながる「食道」に分かれています。食べ物のがのどの奥に進むと脳に信号が伝わり、脳からの指令で気管の入口がふさがるため食べ物は食道に入ります。のどは呼吸の通り道と食物の通り道の交差点です。そこで『誤嚥』が生じます。歳をとってくると、この信号や指令がうまく伝わらなくなり、食べ物や唾液が気管に入ってしまいます。この飲み込みの障害は、加齢に伴う『のどのフタを閉じる反射の遅れ』から起こる場合と、疾病（脳卒中・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・重症頭頸部外傷等）により、口やノドの機能低下より起こる場合があります。食べ物や唾液が気管から肺に入ると肺炎（誤嚥性肺炎）を起こすのです。若い健常者の場合、飲み込んだとしても咳反射も強く、また免疫力にも余裕があるため老人のように発症することは少ないのです。症状としては嘔吐物を飲んでしまった場合の様な急速に悪化する肺炎症状のタイプと、睡眠時に口の中の唾液とともに細菌が気管内に入って生じるタイプに分けられます。

治療方法は？

いずれにしても治療は気管内を吸引してきれいにし、抗生物質を適宜投与し細菌をやっつける一般的な肺炎の治療を行います。繰り返す場合は胃瘻や気管切開なども考えに入ります。

予防方法は？

近年、口腔ケアにより歯や粘膜の清掃をしっかり行い、同時に摂食嚥下機能を高めることで誤嚥性肺炎を予防できることがわかってきました。誤嚥性肺炎予防の2大ポイントは「口腔の清掃」と「機能回復」です。歯磨きなどにより口の中を清

潔にして細菌を減らします。そして、食べたり飲み込んだりする摂食・嚥下機能を回復させることも大切です。口腔の「細菌除去」と「機能回復」がケアの両輪となり、誤嚥性肺炎を予防します。胃・食道逆流現象を防ぐため、食後2時間程、座位を保つようにします。また、嚥下しやすい形状の食事として、「とろみ食」や「きざみ食」を使います。食事に集中できる環境をつくることも大切です。いつも同じ食器を使うことも良いでしょう。口から食べて栄養状態を良くすることは大事です。高齢者や病気の方は全身の状態が低下しています。健康な人であれば多少誤嚥があっても発症しませんが、からだの抵抗力が落ちていると発症しやすくなってしまいます。口から食事をとり栄養状態を良好にすることも、誤嚥性肺炎を予防するうえで大切になります。

咳反射を改善する薬剤として、降圧剤の「ACE阻害剤」が報告されています。咳反射に関係する神経伝達物質に、「サブスタンスP」があります。降圧剤のACE阻害剤には、サブスタンスPを分解する酵素のACEを阻害する作用があり、サブスタンスP濃度が高まるため「咳の誘発」という副作用が認められます。この副作用を逆手に取って、咳反射を増強させる方法です。唐辛子に含まれるカプサイシンには、このサブスタンスPを神経末端から分泌させる働きがあるので、唐辛子を用いた食事もよいでしょう。また近年、漢方薬の「半夏厚朴湯」が嚥下・咳反射を改善したとの報告もみられます。一方、睡眠薬や精神安定剤・抗ヒスタミン剤は、嚥下・咳反射を抑制するので、最小限度にします。そして、最近、有効性が注目されているのが『肺炎球菌ワクチン』です。まだのようなら、主治医の先生に相談されてみてください。



外科部長 岡村 一樹

医学博士
日本外科学会専門医
所属学会：日本外科学会／日本臨床外科学会／日本胸部外科学会／日本癌学会／日本癌治療学会 他

皆様からいただいたご意見・ご要望

ご意見

笑顔・やさしさ・思いやりが一番嬉しいです。頑張ってください。

ご意見

今回の入院は本人の調子もよく、スタッフの皆様によくしていただきありがとうございました。

ご意見

面会にいつ来ても皆様の対応がとても良かったと思いました。本当にお世話になりました。

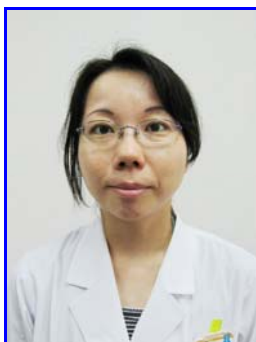
回答

暖かいお言葉ありがとうございます。この言葉を励みに今後もよりサービスの向上に努力してまいります。お気づきの点がございましたら、これからも遠慮なくおっしゃってください。

当院ではサービスの向上を目的として、入院されている患者様の退院時や来院される方々を対象にアンケート調査を実施しています。ご協力いただきましたアンケートにつきましては、今後の病院運営の参考にさせていただき、患者様に対するサービスの充実に努めてまいりたいと考えています。大変お手数をお掛けいたしますが、当院のサービスの向上のため、今後もアンケートへのご協力をお願いします。

新人職員紹介

New Staff



加藤 里絵(小児科)

小児科部長
小児科専門医
所属学会：日本小児科学会

5月より西田病院に赴任してきました。以前は緒方にいたので、環境が180度変わって新鮮な気持ちです。頑張りますので、よろしくお願いします。



山本美智代(看護部)

初心に戻って頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



後藤 由賀(看護部)

またお世話になることになりました。いろんなことに頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。



西水 悠平(臨床工学科)

地域社会に貢献できるよう、また、患者様に喜ばれるような医療を提供できるように努力してまいりますので、よろしくお願いします。



高山 善孝(臨床工学科)

臨床工学技士として、まだまだ未熟者です。一日も早く皆様の力になれるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

医療法人慈恵会 西田病院

〒876-0831 大分県佐伯市大手町3-3-24

電話 0972 (22) 0180 FAX 0972 (23) 3053

Email: info@nisida-med.jp <http://www.nisida-med.jp>